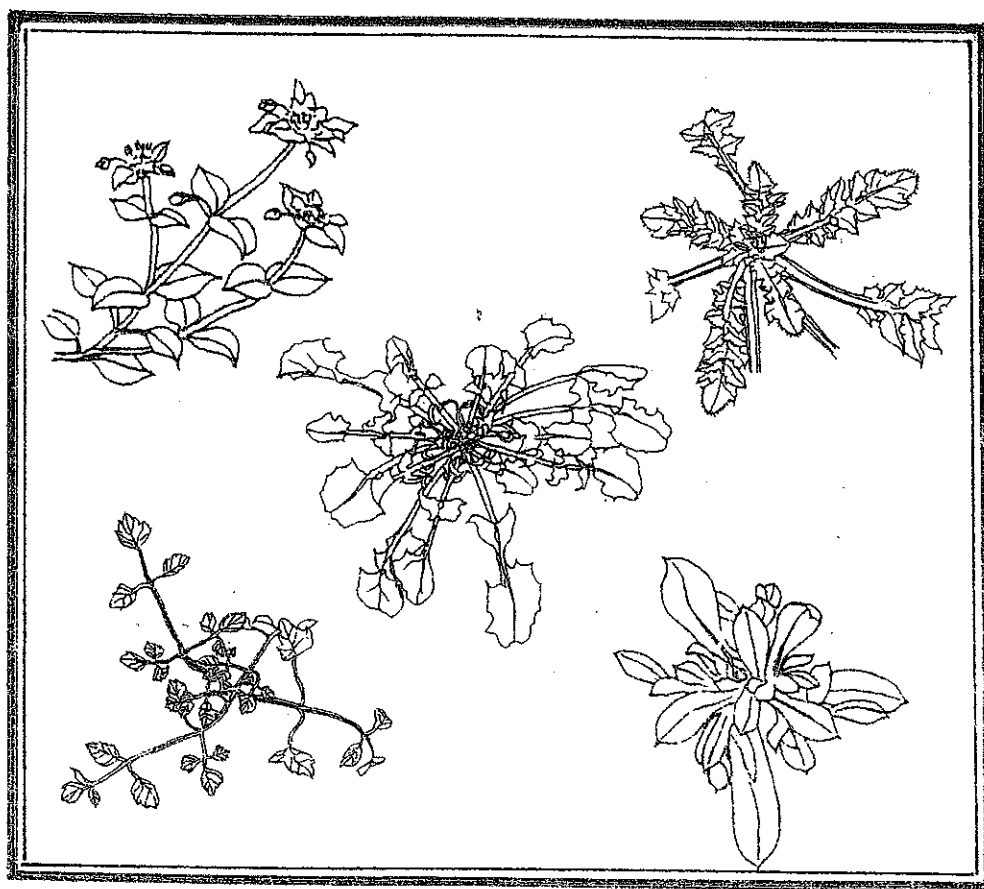


2003

# とよなか春の野草調査



2003年12月

とよなか市民環境会議アジェンダ21自然部会

## 目 次

1. 調査の目的と内容 .....	2
2. 調査方法 .....	2
3. 調査した植物の概要 .....	4
4. 調査結果	
調査用メッシュ図 .....	5
各種の分布状況 .....	10
5. 結果の分析と考察	
各種の分布状況と考察 .....	6
調査の結果を診る .....	12
前回調査との比較 .....	14
6. まとめ .....	15
7. 調査者の感想 .....	16

## 1. 調査の目的と内容

自然の豊かな豊中にしていこう、そのために「豊中の自然に親しみ学ぶ、豊中の自然を守り育てる、豊中の自然を創り広げる」と目標を掲げ、とよなか市民環境会議自然部会は1999年から様々な活動を展開してきた。自然観察会を始め、猪名川自然林・島熊山・春日町竹林・天竺川の清掃や整備、小中学校でのビオトープ作りなどを行ってきたものの、豊中の自然は年を追う毎に減少の一途をたどっている。2003年3月版豊中市環境報告書を見ても緑被率は1995年の15.6%から14.7%に減少（目標17.0%）、保護樹木数も年々減少傾向にある。

このように追い立てられる一方の生き物達の実情を調べ、その保全に向けて私達ができることを考えたいと始めたのがこの生物調査である。2000年水鳥調査、2001年ツバメ調査、植物については1998年～2000年にの3年間にわたる「豊中版秋の七草調査」「2000年タンポポ調査」「2000年春の七草調査（豊中市）」などを行ってきた。

今回は春の野草10種を調べることになった。一般的に言われる春の七草の中、栽培種であるスズナとスズシロを省き、セリ、ナズナ、オギョウ（ホウコグサ）、ハコベ、ホトケノザ（コオニタビラコ）の2000年に調査した5種に、あらたにノビル、ツクシ、スマレ シュンラン、カラスノエンドウの5種を加えた計10種の分布調査を行った。この10種の選定にあたっては

- ①田園的な環境に生息する種が中心だが
- ②山地的な環境に生息する種
- ③水辺的な環境に生息する種
- ④豊中では希少種になろうとしている種
- ⑤多数の協力で行うため比較的広く知られている種 も考慮に入れた。

## 2. 調査方法

### 調査期間

2003年3月2日～4月2日の1ヶ月間

### 調査方法

- ①従来通り豊中市内を経度・緯度に従って1km×1kmの52メッシュに分け、小面積の地域は2～3メッシュをまとめて一区分とした。
- ②担当メッシュ地図に 5株以内の少ない本数は● と記入した  
10株以上の多めの本数は○
- ③基本的に次の2種をペアにして1枚の地図に記入した  

<u>左側を赤で記入</u>	セリとノビル ナズナとツクシ オギョウ（ホウコグサ）とスマレ ハコベとシュンラン	<u>右側を青で記入</u>
	ホトケノザ（コオニタビラコ）とカラスノエンドウ	

ただし10種の殆どが観察できない地域は、1枚の地図に全ての種を記入しても可とした

- ④地図は、これまでのものが分かりにくいという指摘があったので最新の見やすいものを準備した
- ⑤今回の調査と併せて、担当区域内にある調査員が推奨する名木・古木、担当区域内にある公園の自然度も調査した

### 調査メンバー

とよなか市民環境会議アジェンダ21自然部会がこれまで行った「豊中版秋の七種調査」「タンポポ調査」等に携わった市民に呼びかけ、計47名で調査した

### 準備物

豊中市全体地図、担当メッシュ地図、春の野草10種解説図鑑、調査の手順用紙、自然観察員証



### 3. 調査した植物の概要

#### ①セリ 【セリ科】

水田など湿地や水辺に生える多年草。地をはう枝から新しい株ができてふえる。白色の小さい花が多数かたまって咲く。茎や葉に特有の香りがあり食用にされる。

#### ②ナズナ 【アブラナ科】

田の畦や畑、道ばたや公園の周りなどどこにでも生える2年草。アブラナやダイコンと同じなかまで、4枚の白い花弁は十字型に並んでいる。果実は逆三角形をしており、長い柄で茎についでいる。ペンペン草ともいう。

#### ③オギョウ(ハハコグサ、ホウコグサ) 【キク科】

畑地のまわりや道ばた庭などに生える2年草。茎葉ともに白い綿毛がある。チチコグサとよく似ているが、チチコグサの花が灰褐色であるのに対してオギョウの花は黄色である。御行(オギョウまたはゴギョウ)といい草餅にも用いられた。

#### ④ハコベ 【ナデシコ科】

道ばたや公園などどこにでも生える2年草。やわらかい肥沃な土地ではよく育っている。白色の花弁は5枚で、それぞれが2つに分かれているので10枚のように見える。茎が紫色に染まるものがある。小鳥や鶏の餌に用いるが、あくが少なく食用になる。

#### ⑤ホトケノザ(タビラコ、コオニタビラコ) 【キク科】

主として水田に多く見られる2年草。葉が根もとから出て地面にひろがるようすを仏像の台座と見たててホトケノザという。図鑑を見るとタビラコ(田平子)となっているが、これは田の表面に平たくくっついて見えることからついたなまえ。花は黄色。

#### ⑥ノビル 【ユリ科】

畑のまわり、野原や土手の草地などに生える多年草。草全体にニラのにおいがする。地下に1~2cmの鱗茎があり若葉とともに食用にされる。花は白色でわずかに紅紫色を帯びる。小球芽ができ地に落ちると新しい株になる。

#### ⑦ツクシ(スギナ) 【トクサ科】

土手などの斜面によく見られるが、荒地や道ばたなど日があたりがよく水はけがよくて他の草が少ないところに生える。地下茎の節から胞子茎(ツクシ)を出し、その後栄養茎(スギナ)を出す。

#### ⑧スミレ 【スミレ科】

土手などの斜面や道ばた、庭などの日当たりのよいところに生える多年草。一般にスミレと呼ばれるものには種類が多い。濃紫色の花で葉の柄に翼があるのがスミレ、花の色がやや薄く葉身の基部が巻き上がるノジスミレ、淡紫色の花で枝を立ち上げるタチツボスミレ、濃紫色の花をつけ葉の裏が紫色のシハイスミレなどがあげられるが、ここではすべてスミレとして扱うことにした。

#### ⑨シュンラン 【ラン科】

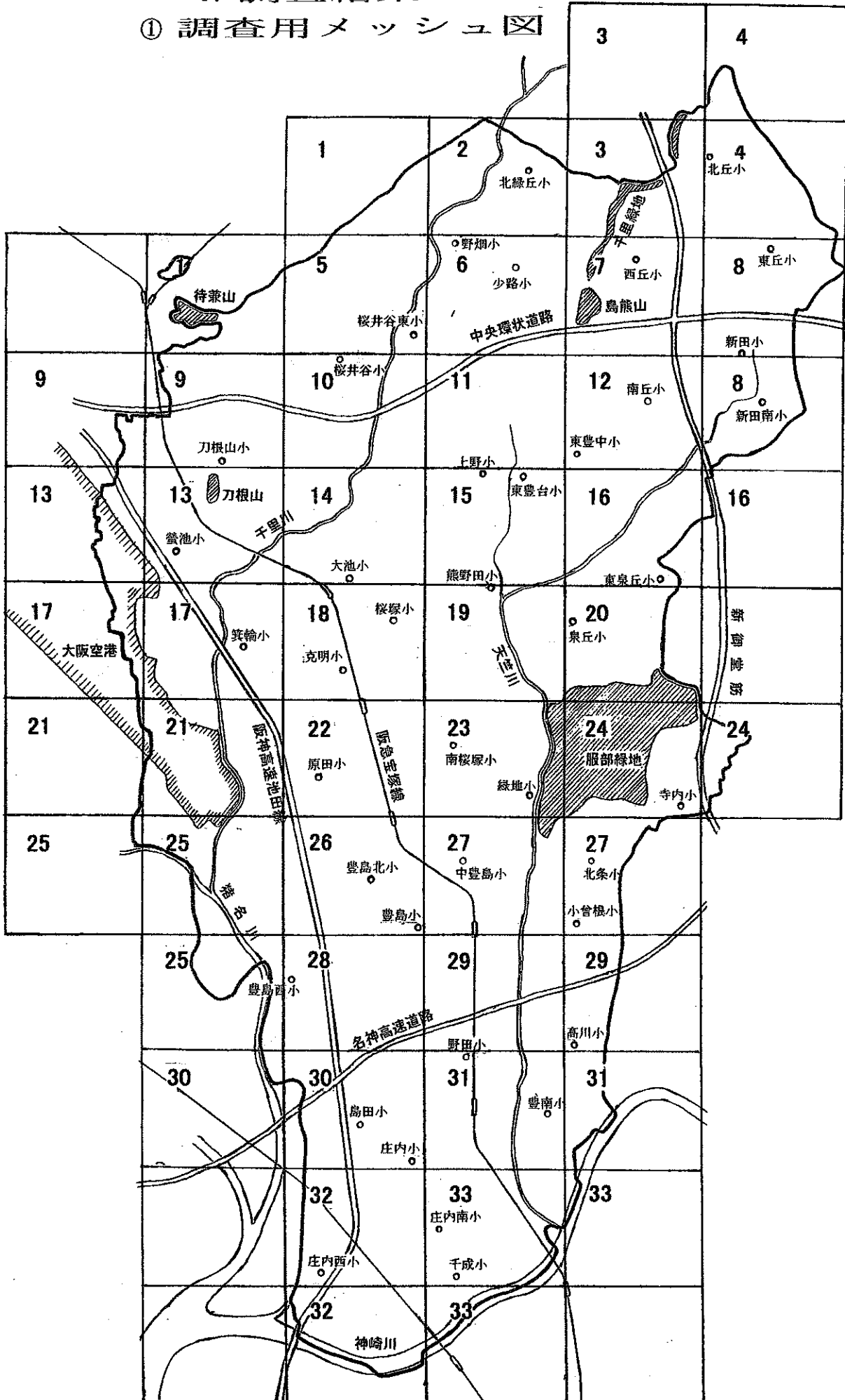
丘陵地の林内で乾燥気味の土地に見られる常緑の多年草。花によい香りがある。日本で自生する数少ないシンビジウム属のなかまで、ひとつの花茎にひとつの花しかつかない。

#### ⑩カラスノエンドウ 【マメ科】

空地、土手、畑のまわりや道ばたなどで見られる2年草。茎は四角ばっており、羽状複葉の先端は巻きひげになっている。スズメノエンドウやカスマグサと似ているが、カラスノエンドウは草全体がいづれよりも大きく、紅紫色の花がよくめだち花柄がごく短いことで区別できる。

# 4. 調査結果

## ① 調査用メッシュ図



## 5. 結果の分析と考察

### ① 各種の分布状況と考察

#### 1) セリ

総メッシュ数 52 に対して 19 メッシュでの確認から、単純にみれば、全域の 36% を締めいる。

分布生息地は、今も田圃の残る市域の北部、東部、西部、の端の 3 地域に大別される。予想としては、もっと少ないかと考えられた。しかし、元来、強靱な植物体でもあり、農業者からは、田に蔓延る嫌われ者でもあっただけに、調査報告には、一部の湿地帯での群生も見られ、田圃そして、そのつながりの湿地や、阪神高速高架下の三面張りの排水溝の土溜まりにも見ることが出来る。

しかし、あくまで、田圃を含めた周辺の環境が変わる事があれば、市内での生息域の減少も考えられる。

#### 2) ナズナ

総株数が 10,000 株を超えており、45 メッシュとほぼ全メッシュにみられる。この 10 種の中でも 3 番目に多い。開花時は、花茎が、20cm~30cm となり良くめだち、調査観察が容易で、比較的精度の高いカウントが出来たとの報告が寄せられている。セリと違い陸生で、且つ、強い性質からも全域で見られる。但し、中央環状線と新御堂筋のインター下と、新しく開発された住宅地ではみつからなかったという報告もあった。都市化された豊中の環境下でも力強く繁殖をしているのが調査からも読みとれる。

#### 3) ホウコグサ (ハハコグサ)

所在メッシュ数 27 メッシュ、という事で 10 種中でも 7 番目という少ないグループに属する。田の畦道、田圃の土手の斜面地に多く、東泉丘の田圃にたくさんあり。ただ、一部住宅地や上野の兎川の三角地にも見られる。チチコグサ、又、最近よく見かけるチチコグサモドキの紛らわしさから、花をつける 4 月頃から 5 月の調査が望まれる。

今後とも、農耕地とは完全に切り離しての繁殖や、著しい環境の変化上での生育は難しいと思われる。

#### 4) ハコベ

ナズナの倍に近い総株数が 18,315 株で、カラスノエンドウに次ぐ 2 番目に多く、52 メッシュ中 49 メッシュを締め出現率は 94.2% という調査結果が出ている。

ナズナの見目の強靱さに比べ、小さく柔らかな葉で、種子も又、小さくひ弱にみえるが、乾燥に強く発芽能力を、数年間持続が出来る事から、歩道の植込みの下草の中など、身近な生活環境の場にも見られるという報告がある。

## 5) ホトケノザ

服部緑地の南北の田園地帯にもっとも多く、あとは、走井地域、桜井谷の東西の地域に見られる。山地にあるシュンランを除いた、9種が揃った、8メッシュに当然ながら、みごとにこのホトケノザの生息域が重なる。重なるということは、植物相の豊かな場所が、まず、必要条件と、とらえても良いのではないか。

田圃の環境下とは、切っても切れない関係にあり、水稻栽培の農作業サイクルがなくなれば、消える運命にあり、例えそれがあっても、傍にマンションが建ち日照時間が減少し、風が入りにくくなると生息必要条件がえられなくなり消滅する。又、元田圃だった畑でも必要条件が満たされれば生息が可能なようで、調査報告者からの畑での確認があった。

全国的にもホトケノザの減少傾向との事だが、これは、稲の種子の品種改良によって田植えが早く成り、ホトケノザの開花そして結実までに、田おこし、しろかきが始まるためとの説もあり、いずれにしても非常に弱い植物体である。

豊中市の総面積に締める緑被率は、14.7%程であり、田、畑も「緑」を提供しているという事から考えると、農地の保護、保全が望まれる。その、バロメーターとしてホトケノザの生息域の注視が今後、必要かと考えられる。

## 6) ノビル

37メッシュで見られる。総株数としては3020株で5番目、株数で見ると少ないが広く分布している事が分かる。(イ) 東部地区の服部緑地から北へ泉丘、千里南町(ロ) 西部地区の空港周辺から北へ刀根山方面に多く(ハ) 南部の庄内から豊南町にも比較的多く見られる。

特に服部緑地周辺では広範囲にわたって群生しているという報告があった。

## 7) ツクシ

早めの調査ではツクシ、後半はスギナも見られるので発見のチャンスは多くなる。総株数6035、メッシュ数43はいずれも4番目の多さである。(イ) 庄内から利倉、原田にかけて(ロ) 刀根山、蛍池から待兼山町にかけて比較的多いが、特に目立って多いのは(ハ) 服部緑地から千里、緑丘方面にかけてである。そんな中でエアポケットのように少ない所がある。メッシュ7は千里中央駅周辺のビル街や、人の立ち入りが出来ないインターチェンジが有るためと思われる。

また、少ない所としては桜塚から上野東、春日町にかけて市の中心部、住宅地である。全体としては広く普通に見られるなじみの野草である。



## 8) スミレ

総株数は2485で決して多くはないが、メッシュ数で見ると40もあり広く浅く分布しているという感じである。(イ) 服部緑地から泉丘にかけて一番多く(ロ) 千里地区(ハ) 千里園から刀根山、蛍池(ニ) 南部では庄内で比較的多い。

一方原田、曾根、服部地区から北条にかけて東西にわたり少なかった。コンクリートの境目や道のちょっとした隙間に花を咲かせているという報告が多数あった。種類としては市内ではスミレ、タチツボスミレ、ノジスミレ等も観察されている。

## 9) シュンラン

今回の調査の中で最も株数の少ない野草である。70株、5メッシュと非常に少なく、限定的である。千里緑地、大阪大学待兼山寮の周辺2カ所だけである。

山地の少ない豊中に数が少ないのは当然である。絶滅しかかっている大切な種なので毎年確認する必要がある。調査で市街地に植えたと思われるものはカウントしなかった。

## 10) カラスノエンドウ

今回の調査で総株数が30030、メッシュ数で50はどちらも第1位である。カラスノエンドウは開花していないものもあって、カスマグサ、スズメノエンドウとの区別が難しかったという報告があった。しかしこれら2種は実数が少なく調査の大勢には影響は少ないと思われる。

道ばた、団地の敷地、川の堤等広範囲に見られ、市内南部や中心部でも数多く見ることができた。





スミレ



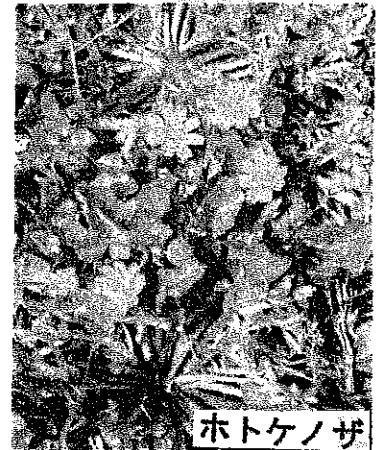
セリ



ハコベ



ノビル



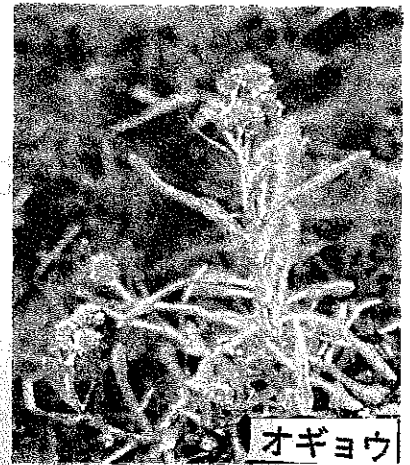
ホトケノザ



シュンラン



ナズナ



オギョウ



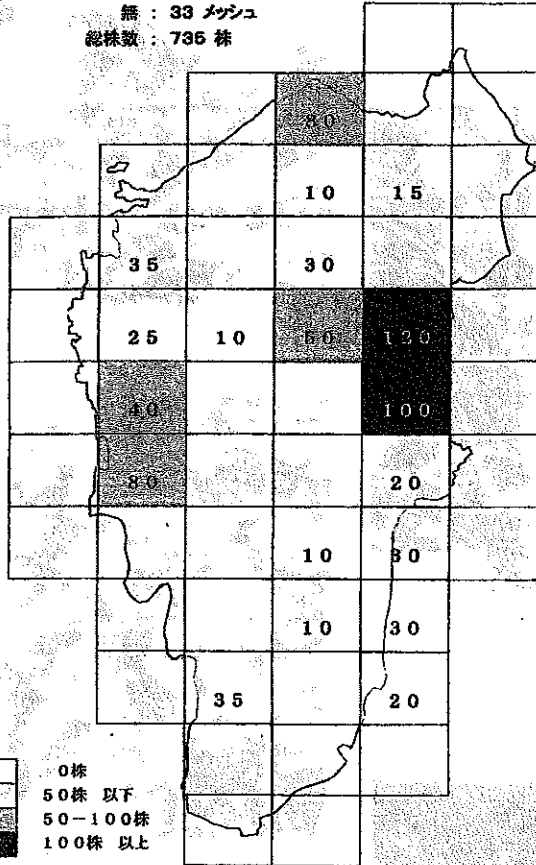
ツクシ (スギナ)



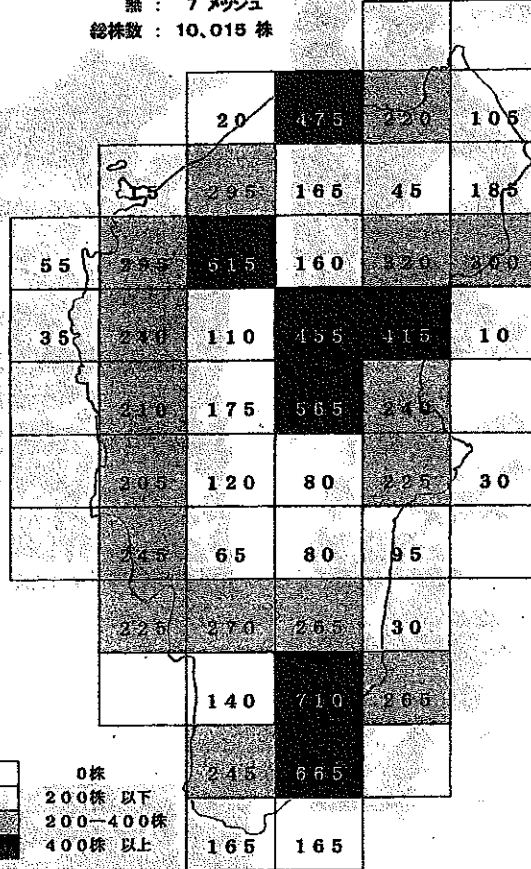
カラスノエンドウ

## ② 各種の分布状況

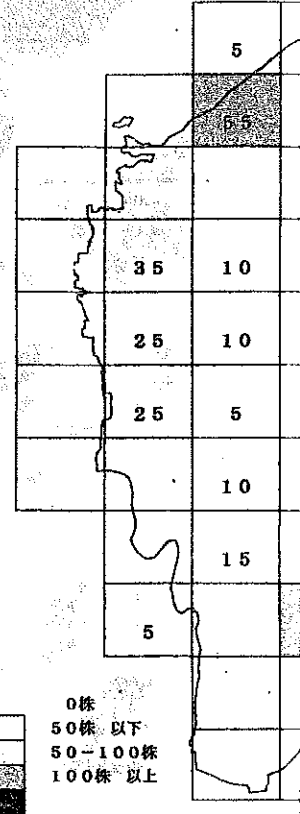
① セリ 有 : 19 メッシュ  
無 : 33 メッシュ  
総株数 : 735 株



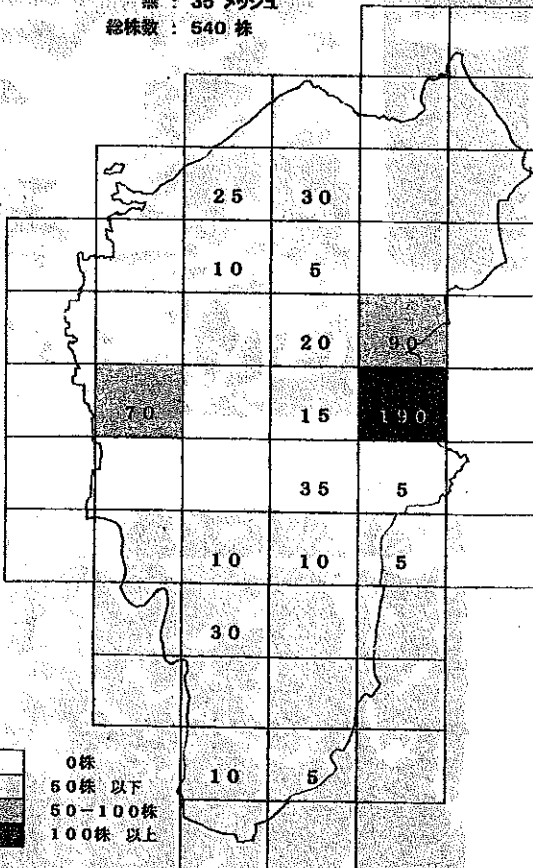
② ナズナ 有 : 45 メッシュ  
無 : 7 メッシュ  
総株数 : 10,015 株



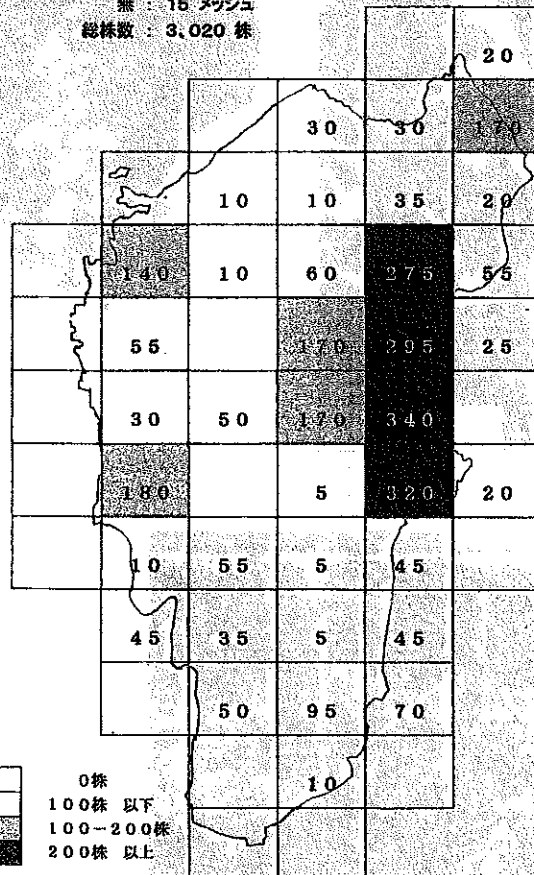
③ ゴギョウ 有 : 27 メッシュ  
無 : 25 メッシュ  
総株数 : 795 株



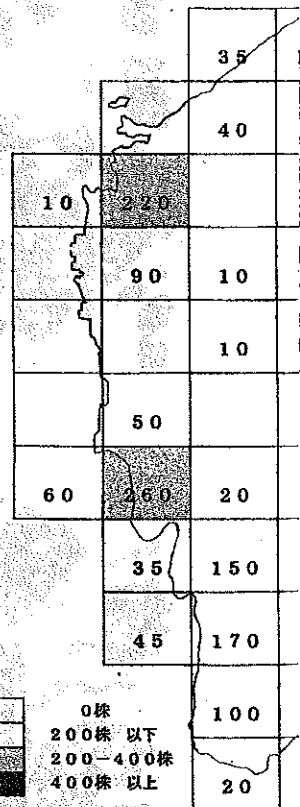
④ ホトケノザ 有 : 17 メッシュ  
無 : 35 メッシュ  
総株数 : 540 株



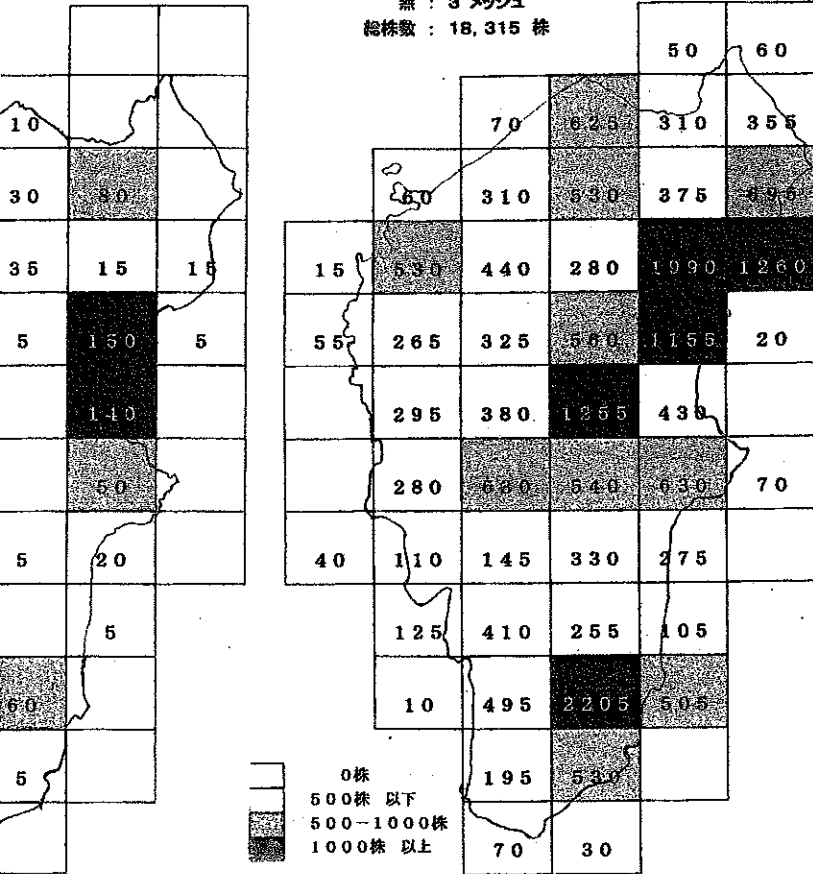
⑤ ノビル 有 : 37 メッシュ  
無 : 15 メッシュ  
総株数 : 3,020 株



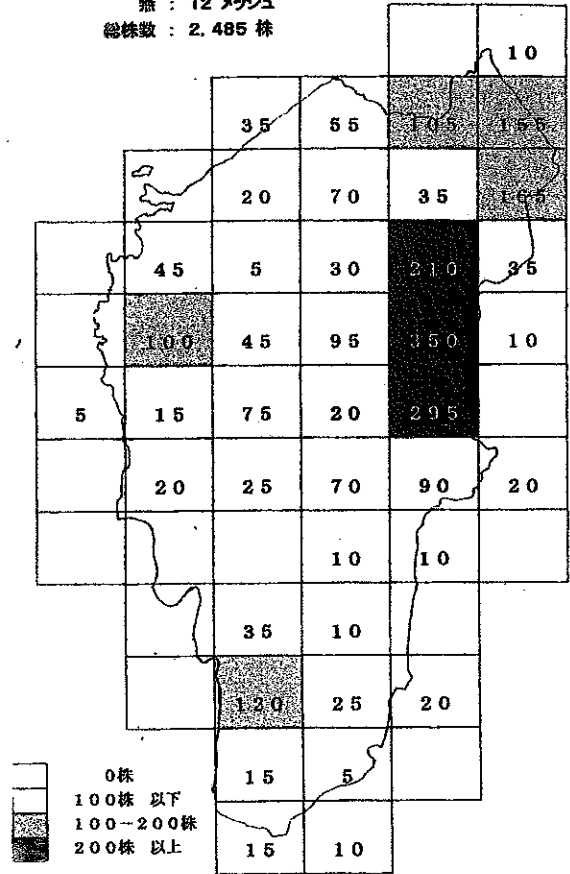
⑥ ツクシ 有 : 43 メッシュ  
無 : 9 メッシュ  
総株数 : 6,035 株



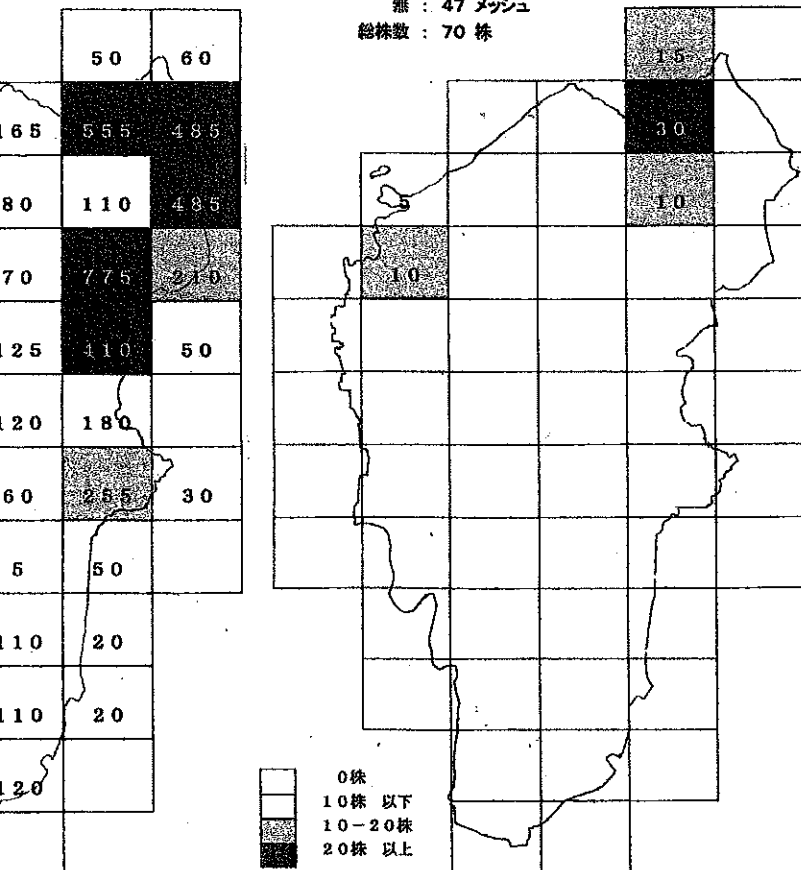
④ ハコベ 有：49 メッシュ  
無：3 メッシュ  
総株数：18,315 株



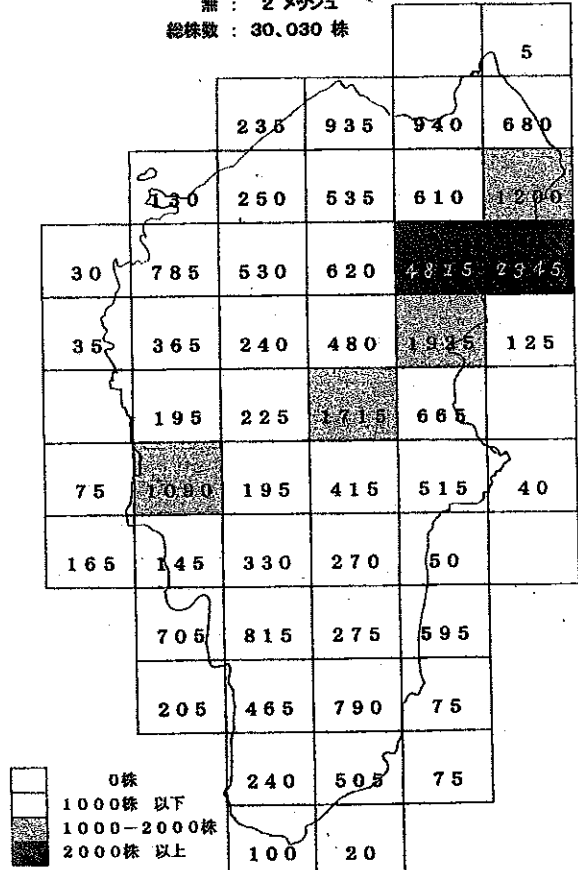
⑤ スミレ 有：40 メッシュ  
無：12 メッシュ  
総株数：2,485 株



⑥ シュンラン 有：5 メッシュ  
無：47 メッシュ  
総株数：70 株



⑦ カラスノエンドウ 有：50 メッシュ  
無：2 メッシュ  
総株数：30,030 株



## ② 調査結果を診る

はじめに

調査した10種の植物について、調査した豊中市内52の区分(枠)での分布の状況をいくつかの点から分析を試みた。

### 1. 調査植物は次の10種である

①セリ、②ナズナ、③ホウコグサ(オギョウ)、④ハコベ(ハコベラ)、⑤タビラコ(ホトケノザ)、⑥ノビル、⑦ツクシ、⑧スマレ、⑨シュンラン、⑩カラスノエンドウ

### 2. 先ず各10種についての調査結果の株数とその平均及びそれぞれの種の生育枠数(メッシュ数)を見ると次の通りである。

	総株数	枠平均株数	出現枠数	出現枠率(%)	備考
①セリ	734	14.1	19	36.5	
②ナズナ	10015	192.6	45	86.5	
③オギョウ	795	15.3	27	51.9	
④ハコベ	18315	352.2	49	94.2	
⑤タビラコ	540	10.4	17	32.7	
⑥ノビル	3020	58.1	37	71.2	
⑦ツクシ	6035	116.1	43	82.7	
⑧スマレ	2485	47.8	40	76.9	
⑨シュンラン	70	1.4	5	9.6	
⑩カラスノエンドウ	30030	577.5	50	96.2	

### 3. 上の表を株数の多い順に並べ、合計数及び平均数を加えて見ると下表となる。

	総株数	枠平均株数	出現枠数	出現枠率(%)	備考
1 ⑩カラスノエンドウ	30030	577.5	50	96.2	
2 ④ハコベ	18315	352.2	49	94.2	
3 ②ナズナ	10015	192.6	45	86.5	
4 ⑦ツクシ	6035	116.1	43	82.7	
5 ⑥ノビル	3020	58.1	※ 37	71.2	
6 ⑧スマレ	2485	47.8	※ 40	76.9	
7 ③オギョウ	795	15.3	27	51.9	
8 ①セリ	734	14.1	19	36.5	
9 ⑤タビラコ	540	10.4	17	32.7	
10 ⑨シュンラン	70	1.4	5	9.6	
枠数合計	52	52	52	52	
合計	72039	1385.4	332	638.4	
枠当平均数	1385.4	26.6	33.2	63.8	

#### 4. 結果の分析

- ① 調査した10種の総株数及び出現株数を見ると共に最も多いカラスノエンドウから最も少ないシュンランまでその差は大きく随分な開きがある。
- ② 最も多いカラスノエンドウは30030株で、最も少ないシュンラン・70株の実に429倍にもなっている。シュンランは特に少なく、次に少ないタバコでも55.6倍である。
- ③ 出現の株数でも9番目のタバコが約3分の1であるのに比較してシュンランは10分の1にしか過ぎない。
- ④ 総株数と出現株数の多い順を見るとカラスノエンドウからシュンランまで、その順序は殆ど変わらない。しかし、ただ総株数では5番目がノビルで6番目がスマレであるのに対して、出現株数ではこれが逆転し5番目がスマレで6番目がノビルとなっている。
- ⑤ 調査した10種について、豊中市内での分布状況を見ると、
  - ① カラスノエンドウとハコベは全市域の90%以上に生育が見られ、
  - ② ナズナ、ツクシについては80%以上、
  - ③ ノビル、スマレも70%以上の地域に生育している。以上の6種については豊中市内のほぼ全域での生育を見ることができのに対して、
  - ④ オギョウの生育が見られるのは50%程度の地域となり、
  - ⑤ セリ、タバコではそれが生育しているのは30%の地域と少なくなり、さらに
  - ⑥ シュンランになるとそれが見られるのは10%以下と地域がごく限られている。

#### 5. 結果の考察

- ①カラスノエンドウ、ハコベ、ナズナ、ツクシ、ノビル、スマレの6種については、いずれも70%以上の地域で確認されており、都市化、宅地化が進んだ豊中市ではあるが、少ない空地にも適応して良く生育している。スマレについては、調査前の予想を越える高い結果が得られたが、草丈が小さいことや更に花が地面に低く接して開花しているなど、日常的には目につきにくいことによるものと思われる。
- ②ホウコグサは、50%とこれも予想以上に多く確認されている。しかし、これはチコグサやチチコグサモドキと言った外来種との判定の紛らわしさがあり、花の開花を待っての調査が必要かも知れない。
- ③セリ、タバコについては、生育する地域が30%と少なくなり、豊中市内では希少種として見る必要があるだろう。セリは静かな溝辺や深田と言われる年中ぬかるむような水田を好み、タバコは生育が水田に限られると言える程で、この両種は水田と関連して生育する植物であるだけに、水田とともに保存し、残ってほしい希少種である。
- ④シュンランは、山間の林内に生育するもので他の9種と異なっている。竹林にも見られるが、立ち入りができない所も有り、十分に細部まで調査ができたと言い難いところであるが、山地が極端に少なくなった豊中市内で70株は予想を越える結果であった。しかし株数にして5で、全体の10%に満たないという結果は、山地が減少する豊中では当然と言えよう。極めて珍しい希少種となっていることは確かで、意識的な保護・保全が望まれる。以上

### ③ 前回調査との比較

2000(H12)に豊中市が行った環境データベースの中に 春の七草調査があるので、今回の調査結果と比較して見る。本来比較は同じ条件であるものだが、この比較は調査時期が異なるという条件の上であえて試みたものである。

比較したのは今回調査しなかったスズナ、スズシロ を除いた5種 セリ、ナズナ、オギョウ、ハコベ、ホトケノザ である。

確認株数の違い

表 1

	セリ	ナズナ	オギョウ	ハコベ	ホトケノザ
2000(H12)	522	1559	884	4875	512
2003(H15)	735	10015	795	18315	540
増減	213	8356	- 89	14440	28
増減率	1.4倍	6.4倍	0.9倍	3.8倍	1.1倍

確認メッシュ数の違い

表 2

	セリ	ナズナ	オギョウ	ハコベ	ホトケノザ
2000(H12)	27	42	34	47	24
2003(H15)	19	44	26	48	17
増減	- 8	2	- 8	1	- 7
増減率	0.7倍	1.05倍	0.76倍	1.02倍	0.71倍

#### 結果と考察

今回の調査で2000年の調査より株数の増えたものは4種で、減ったものはオギョウの1種である。増加したもののうち、大幅に増加したものは ナズナ6.4倍、ハコベ3.8倍でセリ、ホトケノザは1.4倍 1.1倍と増加率は低い。(表1)

メッシュ数の違いで見ると、増加したものは ナズナ 2メッシュ、ハコベ 1メッシュである。逆にメッシュ数の減少したものは セリ8メッシュ、オギョウ8メッシュ ホトケノザ7メッシュとかなりメッシュ数の減少が見られる。(表2)

株数の増加が著しいナズナとハコベ はメッシュ数も増加している。株数の増え方が少ないセリ、ホトケノザ、株数の減少したオギョウ、はメッシュ数が減少し、いずれも2000年調査の70%台になっている。

株数が増加したのは、調査時期が2000年調査では1月中旬～2月上旬で植物の休眠期であり発芽していないものもあった。またあまり成長していないため植物の特徴が出ていなくて分かりにくかった。これに比べ今回の調査は3月上旬～4月上旬と約2カ月近く遅いため、かなり成長して花を付けたのもあったりして見つけやすかったのではないかと思われる。メッシュ数が減少したセリ、オギョウ、ホトケノザ、については、いずれも田畑又は水辺に生育する植物で、この間に多く生育していた田畑が開発された影響もあるのではないかと思われる。

## 6. ま と め

豊中アジェンダ21策定の2年前、公募で集まった自然部会員約30名が、1997年12月の豊中市環境展で10枚ものパネル『歩いて 見て 感じた豊中の自然』を制作、発表した。その時から豊中の自然減少を憂い、その状況に歯止めをかける手だてについて議論されていた。あれから7年過ぎたが、2003年の自然環境はどうなのか。

今回調査した春の野草10種の中には、道路脇やコンクリートの割れ目にも生育するたくましいものもあったが、激減状況にある山地、農地、湿地等にかろうじて生息しているものが多かった。また、公園や団地の緑地部分で見られた種も、単なる雑草として抜かれたり、園芸種の花いっぱいにするガーデニングの流行で、無くなる危険性が指摘されている。早急に豊中の希少植物リスト作りを進めると同時に、保全に向けた次の一步を考え、絶滅から守る必要がある。

春の忙しい最中であるにも関わらず、約1㎢もある広い区域を10種の野草を探して歩き回ってご協力いただいた調査員の皆様のお蔭で、貴重な結果が得られた。ぜひ政策に生かしたい。「私が推奨する古木、銘木」と、公園の自然度を★、★★、★★★（多いほど高い）で判定することと、2003豊中市環境展に向けての「印象的な豊中の自然」の写真撮影もお願いした。豊中市営公園全部と同じ位の広さ（1.174㎢）がある大阪府営服部緑地は自然度も高く利用者も多いが、433カ所ある市営公園は過剪定された木ばかりで、野草の種類も少なく、★にも値しないと嘆きの声が多かった。しかし、上野東1丁目地区で★★★がいくつかあった。来年度実施予定の「公園めぐり調べ」（仮）のお手本にしたい。

なお、今回の調査にあたり、服部緑地民家集落博物館へ無料で入場できたことや、農地への調査立ち入りを農業委員会を通じてお願いし、農家のご理解を得られたことは大変有り難かった。関係各機関にお礼を申し上げる。



## 7. 調査者の感想

メッシュ2 : 河原 登子

- \* 千里川で見つけたセリは、川に下りて匂いを嗅いで確かめたのですが少し不安です。(セリの匂いはよく知っています)
- \* 芽吹きが遅いので調査を4月に入ってからにしたのですが、日程の都合で雨の日になり(数回)大変でした。
- \* ガーデニングの流行で野草の生える場所が減っている。

メッシュ4 : 三宅 史郎

- \* スギナが雨の後に行ったら数多く顔を出していた。
- \* スミレ、タチツボスミレが樫木池や東町で予想より多く見られた。
- \* ノビルは千里北町の道路の土手に見られた。
- \* ナズナは思ったより少なく意外だった。
- \* ハコベはオランダミミナグサに似るが同定は容易で、数多く見られた。
- \* カラスノエンドウは今回の調査では最も多く、どこでも見られた。
- \* メッシュ4では田や小川がなく、コオニタビラコやセリはもともと無いようだ。シュンラン、オギョウも見つけられなかった。

メッシュ7 : 田村 仁志・社 ひとみ

- \* カラスノエンドウがまだ小さくて見分けにくい所もあれば、花が咲いている所もあって場所によってずいぶん差があった。
- \* ツクシは調査すると意外に生えていることが分かった。
- \* ヤエムグラ、ホトケノザが全体に(道路沿いを中心に)多い。

メッシュ8 : 吉見 清之

3月初旬には、十分に生育していないため観察は3月20日以降にした。  
今回の調査で気がついたこと:

- \* 次の野草は担当区域の中で発見できなかった。  
春の七草のうちセリ、ホトケノザ(コオニタビラコ)、その他の野草ではノビル及びシュンランの計4種であった。
- \* 予想より多かったもの: 指定種の中では該当なし。  
しかし、調査中気になったのはミミナグサ(オランダミミナグサ?)とヒメオドリコソウが急増しているのではないかということであった、  
歴史は古いといってもこれらも帰化植物ではないだろうか。
- \* 予想より少なかったもの: ナズナ(ペンペン草)とオギョウ(ホトケノザ)、ペンペン草は子どもの頃、やせた土地ほど多く見られた記憶があるが、担当区域内ではごく限られた場所にしか生育していなかった。  
オギョウも同様にどこにでも見られたと思っていたがナズナ以上に見当

たらず、見落としがなかったか探して歩いたが、わずかに1ヶ所駐車場道路わきに1株見つけただけだった。

- \* 中央公園は、思ったほど植生が豊かではなかった。服部緑地公園と比べて貧弱な感じがした。何故なのか、私なりに出した結論は、もともと竹藪だった所を拓いたため古くからの生育種が少なかったのではないだろうか、ということであるが如何なものであろうか。最近ではマンション建設が進んで、いよいよ残された自然が少なくなっている。今回渡された地図は比較的新しいものと思われるが、それでも現在7~8ヶ所ほどに新しい建物が立ち上がったか、現在工事中である。竹藪がまだほんの少し残っているが、竹藪の中には生育する植物はいくらもないので生育できる植物の種類はますます限定されてくるのであろう。

メッツシュ9 : 上田 峯子

{地区の特徴}

この地区は国道176号線、大阪中央環状線、中国自動車道(豊中料金所)、大阪国際空港線、阪急宝塚線、モノレール空港線が通り、いわゆる街道の町である。大きな公的施設は国立大阪大学、国立刀根山病院の1部、市立豊中病院、府立刀根山高校、市立刀根山小学校、市立第18中学校等数多くあるが、いわゆるマチカネワニが出現した待兼山と刀根山と、地名にもある蛍池が含まれている。豊中がかって里山であった地域の名残りを留める地で、人と自然が共存して暮らしながら今ある姿となった、このまま保全すべき地域であると考えます。

{見て歩いて感じたこと}

- \* 金坂池について： 池周辺の樹木の保全及び池東側真如苑雑木林の保全。池はコサギ、ゴイサギの生息地。カルガモは1年中生息。冬鳥の飛来地。
- \* 大阪大学周辺及び中心にある雑木林について： 豊中市2003年みどりの基本計画の基本方針で核となる「みどりづくり」の文面の中にこの緑地を広域避難地として位置付けされているが開発が進み、野草の種の層が貧弱である。
- \* 麻田用水路について： 農業用水として割合きれいな水が流れていて途中の土の面にセリが生育している。この流域の空き地にはほどほどの野草が残されていて大切にしなければいけない。
- \* 蛍池北町付近について： まちづくりセンター蛍池北町公園で子ども達だけで楽しそうに遊ぶ様子が印象的。木もほどよい剪定でのびのびとして美しい。しかし、バッタやトンボが来る草地が必要。
- \* 公団千里園団地について： 建物との空間が広く野草も抜かれず、カンサイタンポポは見事であった。ノビルの群落も発見。ケヤキが大きく育ち下枝も美しくのび、風にそよぐ姿は将来の名木となろう。サクラも美しく、これからは団地の自然を大切に！の時代であろうか。

- \* 刀根山元町について： 道はせまいので、豊中でも有名であるが昔ながらの住人が家を守って暮らしておられるので緑も多く、道端の草も昔ながらの野草が多い。タイムスリップできる町。

メッシュ11：平位 隆二・平位 純子

仕事の都合で調査が期限ぎりぎりになり、花が多く調査がらくであった。

- \* 野草（調査対象）について：

カラスノエンドウは沢山あり、一面に広がったところもあった。ハコベやナズナも沢山あり、かたまっていた。ゴギョウは思いのほか少なく一部には花が咲いていた。スマレは一株づつ7ヶ所しかなくさびしい限り。ホトケノザは東豊中6丁目兎川沿いの田圃に30坪くらい全面にある。シュンランは生えそうな場所が見当たらなかった。歩道植込みの下草の殆どにハコベがあり、所々ナズナがあったが整備されるので書かなかった。

- \* 木について：

東豊中1丁目東8公園のクスは大きく立派、大切にしたい。東豊中4丁目中山さん宅前のサクラと壁の内のオリーブ（取り合わせが面白い）。

東豊中1丁目と3丁目のマツ（昔の街道マツの感じ）。東豊中団地のメタセコイヤ並木。

- \* 公園の自然度について：

何れの公園も小さく、ブランコ、ジャングルジム、砂場があり、木はあるものの剪定され下草は定期的に除草されている。従って「自然度としてはすべて★星」である。公園というよりは遊び場である。花壇にするとか、自然にまかせるとか、地域に管理費を出して管理を任せるとか地域とよく話し合っって有効に活用される事を望む。

- \* その他：

ワレモコウはあたりに草がなくよくわかった、6ヶ所見つかり各10~20株あった。ムラサキサギゴケと思われる群落が、東豊中6丁目兎川沿いの田圃の畦にあった。ツルボは東豊中団地の60棟と59棟の間の旧農業用水路に大群落（花を見て確認）が見られた。タンポポは関東（？）タンポポの方が多かった。道路沿いは西洋タンポポで、車の気流で種子が飛び増えたのでは。紫のホトケノザとヒメオドリコソウが沢山あり、花時で美しかった。

メッシュ21：大塚 健治

- \* 調査の印象：

春の訪れが遅かった今年の3月2日からの調査は、まだ芽生えていない種類が多く、芽生えを待つことから始まった。平坦な地域ではあるが、芽生えの時期は1ヶ月近くの差があるように思った。私の地域ではカラスノエンドウ、ナズナ、ノビルが増加しており、特にカラスノエンドウの増加ぶりは驚きだった。残念ながらシュンランは、全く見当たらなかった。

又、オギョウ、ホトケノザは数株しか見当たらず、減少傾向にあり残念であった。

\* 銘木、古木：

原田元町3丁目 奥田 保氏の庭に有る黒松(1本)。 勝部2丁目公園の外れにある椋(1本)。 同じく勝部公園にある楠(2本・指定)。

\* 公園：

自然度と言う言葉自身大変むずかしく議論の余地はあるが、旧千里川の流れを変えて作られた細長い公園は、自然を最大限に生かし木々もおおらかに育ち、なかなか良いと思う。将来を見据えて配置などに力をいれて欲しい。(★★星)

メッシュ16、20、24：

高瀬良子・佐藤藤子・坂井佳寿美・後藤慶子・山田光世・村田 光子  
鈴木久美子・高橋幸子・飯島三保子・保脇栄子・桑島いつ枝

\* 10種の野草について：

セリは田圃の水取り口に多かった。又、水の流れが絶えない溝(民家横)でも見つけた。もと田圃で現在野菜畑になっている所にもあった。ナズナは花が満開の見事な群生をあちこちに見つけて写真に収めた。オギョウは畑の周り、棚田の斜面、田の畦道に多かった。道路わきの植込み(築20年位のマンション下)でも見つけた。

ハコベラは花の満開時(3月20日頃)に田の斜面、竹藪下の道路わき等で見事な群生を見つけ、皆しばし見とれた。ホトケノザは殆ど田の中か畦道に多数生育していた、又、かつて田であった畑でも見られた。ノビルは生育環境が特定できないくらい広範囲に群生していた。ツクシは調査の前半(3月10日頃)に多く見られたが、後半にはスギナだけになっている所が多かった。スミレは調査の前半(3月10日頃)には芽生えが見られず後半(4月2日頃)に再調査した。スミレは想像以上に健在という感想をもった。カラスノエンドウは開花していないものが多く、カスマグサ、スズメノエンドウとの区別が難しかった。

シュンランの自生は確認できなかった。

\* 調査を終えて：

- ・西泉丘3丁目(メッシュ20)の阪急不動産による開発が進む広大な土地は、今見るも無残な裸地になっている。ここで失われた竹林、田、畑、ため池、植生等の自然をしっかりと見届けて市の環境行政の姿勢を追及していきたい。
- ・調査期間は少し後ろにずらす事を希望する。3月上旬にはスミレは殆ど芽吹いていなかった(メッシュ20)  
全種が開花する3月末が調査には最適のように思う。
- ・野蒜とか、土筆、芹が、畦道、田圃の土手だけではなく道路沿いや公園で沢山見つける事が出来て驚いた、最近は見ただけで摘んで帰る人が少

なくなったのか？無関心な人が多くなったのか？20年前には親子で良く摘み草に出かけていたように思う。

- ・調査に参加してゆっくり歩いてみると、普段何気なく通り過ぎてしまう道端に、こんな都市の中でも野草がたくましく生えているのに驚いた。一方、調査地域は次々とマンション建設が進み前の調査時よりも自然が失われていっているようで悲しい。
- ・公園は極端に刈り込まれていて野草が見られなく残念だった。校庭の樹木を増やし、子ども達が木に登って遊べる空間を創って欲しい。
- ・公園と校庭に草地部分を造り、子ども達に虫や草と遊べる場所を作ってやりたい。
- ・民家集落緑地（メッシュ 20）は、今回 6 人が無料入場で調査出来ました。有り難うございました。

メッシュ 23： 賀元 武夫・賀元 澄子

今年は3月中も、4月に入りましても寒さが続きましたので、早くに調査を始めました所と、4月初めに回りました所とでは見つかり方も違っているのでは・・・と思いますが、どうぞよろしくお願い致します。長興寺で「つくし」を沢山見つけた時は嬉しかったです。

メッシュ 29： 日野 修徳

- \* セリ 一部の湿地帯に群生が見られた、従って局地性が高い。
- \* ナズナ 全地域に分布、開花最盛期で調査観察は容易であった。
- \* オギョウ 殆んど見られなかった（未熟？）、ハハコグサとチチコグサの判別が難しく今回の調査結果には自信ありません。
- \* ハコベラ 全地域に分布、ナズナ同様、調査は容易であった。
- \* ホトケノザ（コオニタビラコ）、発見出来なかった。
- \* ノビル 一ヶ所で見られた（小曾根3丁目 遊休荒地で）。
- \* ツクシ スギナの群落が、小曾根3丁目ラ・サンテ幼稚園近くの畦畔で見られた。
- \* スミレ 調査観察判別同定は難しくデータの信頼性薄い？（時間と根気が必要か）。
- \* シュンラン 発見出来なかった（当地区では発生ないものと思われる）。
- \* カラスノエンドウ 全地域に分布（調査、比較的容易だった）。

2003年とよなか「春の野草調査」協力者

岩瀬志津子、井谷弘治、入江スナエ、飯島三保子、上田峯子、易 信子、  
小田和子、大塚健治、岡 秀子、岡本静枝、岡 恒夫、片島 進、  
河原登子、賀元武夫、賀元澄子、木村照雄、桑島いつ枝、後藤慶子、  
河野猪太夫、佐藤藤子、坂井佳寿美、斎藤 明、島野成子、鈴木久美子、  
高橋幸子、高瀬良子、高木すみれ、田村仁志、辻由紀子、中川順子、  
廣田 学、日野修徳、平位隆二、平位純子、坊中啓三、丸橋寿夫、  
水江楨孝、三宅史郎、宮本婦佐子、村田光子、保脇栄子、山田光世、  
山口 寿、社ひとみ、横山智恵子、吉見清之、岸田興次

計：47名

以上

